

双松会会報

第18号(「双松会」通巻22号「松北高同窓会報」通巻23号)

発行 松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL ④4888・④0655
印刷 有限会社 高浜印刷所 TEL ④3000



ご挨拶



今年七月十二日に開催されました双松会役員会において、兼折会長ご退任の後をうけ、次期双松会々長としてご指名、ご推挙をいただきました。

会長 金築 修

もとより私如き者その器に非ずといふことを承知しており、また、双松会の会員の世代別分布を見渡し、且つ今後の同窓会の果すべき役割を考えると、き、もつと若い方に会長をお願いするのが適当であると思ひ、存念を述べたのですが、お許しが得られず、不肖ながらお受けすることにいたしました。母校ならびに双松会の光輝ある歴史と伝統を思うとき、重責に耐え得るかどうかが危ぶんでおりますが会員の皆さまの暖かい支えとお力添えをいただきながらその責務を果たさせていただきますと思ひます。

双松会が現在のようにならざるに、年齢幅も居住地の範囲も拡がり、会員間の交流も限られ、同窓という意識も薄れがちとなります。それだけにひとりひとりが双松会の会員であることとを実感できるようにすることが重要であります。会報や名簿の発行もその役割を果たすものであります。さらには会員の関心を高めるような手立てを考へることも必要ではないでしょうか。この点でまず念頭に浮かぶのは、母校の歴史のいろいろな部分についての内容的資料を補う必要が生まれているということです。たとえば、松江中学校以来の沿革資料や記念品等を保管している起雲館が、戦後の混乱や校舎移転などで必ずしも充分な状態にはない

ので、会員にお願いして必要な資料を補い、より充実したものにするということとです。また、これに関連して、これまで未着手の各時代(あるいは世代)の特色を浮き出させる作業も考えられます。これにはその時々を特色づけていた服装、校地校舎の景観、生徒に親しまれていた歌、熱中していたスポーツなども考えられます。今のうちから各種資料を時代背景とともに纏めておく必要があると思われれます。もうひとつの方向は、会員が会員を知る機会をもつということです。同窓生の中には大きな事蹟や感動を呼ぶ行為がありながら会員にはあまり知られていないという方もあると思ひます。そのよい例が、会報一七号で兼折会長が紹介された、顕彰された山本暢男氏(松中四六期)の場合です。このように知られざる功労者を会報等の機能を活用して、少しでも多くの人に知らせ、後輩の生徒たちにもよい参考となるようにすることに大きな意義があると思ひます。これについても会員の方々からの適切なアドバイスや情報提供をお願いしながら努力していかねばならないと思ひます。

退任にあたって

兼折 博

金築会長のご就任を得て、この七月、私の役割を終ることができた。何程の実務があつたわけでもないが、しかし、安堵の思ひは格別である。金築会長とともに、双松会が新しい展開の一步を踏み出すことを心から期待している。就任の挨拶に私は、双松会という組織が「そこにある」というだけでなく、それが生きた組織であることを目標としたい、などと書いたが、残念ながらそのために何かができたと言ひ難い。ただ、私の任期中、丁度北高創立二二〇周年の年にめぐり逢ひ、それに併せて双松会も二二〇周年記念総会を開催することになった。その開催をめぐり、各期幹事の全面的な協力、ご尽力を得たこと、総会当日は全国各地から四〇〇名を超える会員の参加を得て、まさに盛大な総会の開催のできたことなどは、組織の活性化の一端となつたろうと思ひます。

赤山について今一つ心にかかることがある。「双松」のことである。先年、その一樹を失つたことはまことに痛恨、今も残された一樹の姿を見るごとに、何やら空しいものさへ感じられて仕方がない。しかし、台上に芽生えた幼松を二世双松として育て上げてほしいという声の、沛然として起つたことを記憶されている方も多からう。いまの幼松は、樹高数m、樹勢極めて盛んな若松に成長している。専門家の意見を聞きつつ、機会を見て、樹勢最も盛んな一樹を残して他のものは移植、残されたもの成長を助ける必要がある。

新しい出発



昨年十一月、松江北高創立百二十周年記念双松会総会に際し、吹奏楽部、合唱部、吹奏楽部等の一部生徒諸君と共に私も参加させていただきました。

校長 杉原 隆

かつて要職におられた方、現役の方あるいは身近に北高野球部の試合の応援にいつも駆けつけて下さっている方等も含めて、あああの方も双松会の役員さんか確認出来て感謝しつつつづける同窓会でした。また記念講演をなさった旧制松江中学のご卒業で現在横浜市歴史博物館々長の平野邦雄氏がおおよそ六十年前松江中学で薫陶を受けられた歴史教師山本清先生の授業ぶりをまるで昨日のことかのように口調までまねてお話しになり、講演後何人かの方が会場に来ておられた山本先生を壇上にお連れし、万雷の拍手の中で恩師と教え子が握手されるのを見て、教員と生徒の間でさまざまな問題が惹き起され

ている教育現場に身を置く者として胸をうたれるものがありました。さて、平成九年四月、私達は創立百二十一年周年目を新しい出発と強く意識しながら歩み出しました。私は四月八日の始業式で松江北高を伝統校から名門校にしようと呼びかけました。話しの骨子は中央教育審議会の委員でもあった増井俊明氏が最新の著書『教育の心を求めて』の中で、自分が訪問した名門校と言われる高校には次の三つのことが共通していたとして、「校門に一歩足を踏み入ると、まず、「どこにもない気品が感じられる。それは、学園全体にみまざる「志の高さ」ゆえ、生徒も教師も皆「高さを求める」真摯な取り組みをしているからである」、「皆「フラス思考」である。生徒も先生も直接会って話をすると、夢があり、目的が明確であり、努力すれば実現出来る」と言う自信をもっている」、「「礼儀作法や言葉づかいがきちんとしている。自分自身を自覚しているから、そ

れが自然に表れる」を挙げておられます。この三つの要素は本校にも十分基盤が出来上がっています。すべての生徒、教職員により幅広い言動の中に表出するよう拡充を求めたわけであり

第十五期、十六期中央教育審議会を中心にして教育改革は全国規模でつづき提言と共に具体化が進んでおります。数学・物理に優れた能力をもつ生徒諸君は高校二年終了で大学進学が出来るいわゆる「飛び入学」は早くも来年には実施されることになりました。間近に迫った週五日制完全実施による授業時数の削減をくい止める為に米子東、鳥取西高等、鳥取東のいくつもの高校では一般的な一年間三学期、授業の一時限五十分を一年二学期制、一時限六十五分にすてに切り換えられました。本校でも時代の趨勢や来るべき二十一世紀の高校教育の理想的な像を見極め、より良い教育環境を準備すべく前向きに取り組む必要に迫られています。双松会の会員の皆様方におかれましては、引きつづき母校への幅広いご支援、ご指導をお願い申し上げます。

松江北高が松江中学の故地赤山に復帰してから、早くも二十数年が過ぎる。川津校舎の地から移し植えた樹々も、落ちついて「赤山の緑」になり切っている。移転改築、赤山復帰のために右往左往した頃が感慨深い。私の双松会役員という立場は、殆ど三〇年つづいた。その間の二七年間ほどは副会長だったが、副会長というものは複数だし、先輩副会長ご在任の期間も長かつたから、これという任務があつたわけではなく、新入会員の入会式の時、会長代理としてこれに立会うこと

が多かつたくらいのことだった。しかし校長と兼務の副会長期間の六年半は、容易ならぬ期間だった。むろん校長という立場があるからのことではあるが、丁度この時期が、移転改築、赤山復帰のことが動きはじめ、最後の仕上げにかかるまでの期間だったし、他方に創立百周年の記念事業、行事の準備に全力をあげなければならぬ時でもあった。これらをめぐっては、柴田期成同盟会長はむろんのこと、その他の会員の皆さんに、どれほどご援助頂いたか。とくに赤山復帰は、会員の方々のご助力なしには、順調には運ばなかつたらう。今も当時のことは、鮮やかに心に残っている。

新会長に金築修氏就任
平成9年度役員会開催

本年度役員会は、七十余名の出席者を得て、去る七月十二日(土)に松江商工会議所において開催された。

金築修 新会長

副会長、正副幹事長、常任幹事、監事は全員留任となった。

役員会報告

事務局 坂本 育穂

日時 6月28日(土) 13時より
場所 パレスティーマがたま 松江市

(1)副会長補充専任。昨年11月、徳田哲夫副会長が亡くなりました。

(2)平成8年度決算報告(野津副会長)。
監査報告は後藤監事。

徳田哲夫副会長
逝去さる

同氏はS28年浜田高校通信教育部に入学、S37年同校通信教育部の松江北高校通信制統合と共に本校生となり、S41年、14年の歳月をかけて卒業された苦学力行の方である。

若くから弥栄村役場にご勤務であったが、S61年同村安城保育園々長となり、野生のサル「モンちゃん」と園児の交流がマスコミに取り上げられ話題になったこともあった。

会終了後屋外に出ると烈しい風雨。折からの台風9号の襲来も全く感じることなく和やかに盛り上がった会であった。

平成8年度 双松会会計決算書

Table with financial data for 平成8年度, including income and expense items and their amounts.

平成9年度 双松会会計予算書

Table with financial data for 平成9年度 budget, including income and expense items and their amounts.

双松会120周年記念総会会計決算書

Table with financial data for the 120th anniversary general meeting, including income and expense items.

平成8年度 決算書

Table with financial data for 平成8年度, including income and expense items with sub-categories.

Table with financial data for special accounts (積立金), showing previous and current balances.

平成9年度 予算書

Table with financial data for 平成9年度 budget, including income and expense items with sub-categories.

Table with financial data for special accounts (積立金), showing previous and current balances.

平成九年度 総合体育大会

県内初の男・女総合優勝 四連覇! ならず……

男子総合二位(三六・〇〇点)
女子総合二位(二八・〇〇点)

第35回島根県高等学校総合体育大会は、五月三十日から六月二日の四日間、県下各地の会場で、一斉に開催されました。本校からは、男子十四種目に二八九名、女子十三種目に二二三名の選手が出場いたしました。

結果は、四年前と同じく、一点差に泣き、未踏の四連覇を果たすことができませんでした。選手と顧問の信頼関係で成り立っている部活動であります。この一点の重みを来年からはね返して、再び四連覇を目指して、学校一丸となって頑張っていきたいと思っております。

以下主な成績をあげておきます。

男女総合二位 六四点
※男女総合一位 松江商業高校 (六五点)

陸上競技

男子 総合八位
八〇〇m 榎原 七位
一五〇〇m 榎原 六位

三〇〇〇mSC 井山 十一位
四×四〇〇mR 荒木・先久 五位

棒高跳 水師・田部 六位
大谷 二位

ハンマー投 岡崎 五位
小笹 四位

やり投 泉 三位
小笹 三位

砲丸投 小笹 六位
小笹 六位

バスケットボール 準優勝
男子 三位
女子 三位

バレーボール 準優勝
男子 三位
女子 三位

卓球 五位
男子 五位
女子 五位

柔道 五位
男子 五位

男子個人 軽量級 西 五位
レスリング 高村 優勝

新体操 総合 熊野 優勝
男子個人 なわ 熊野 一位
女子個人 棍棒 熊野 一位

女子個人 総合 加島 五位
女子個人 総合 三村 二位

漕艇 シングルスカル 大野 二位
ダブルスカル(佐渡・外岡) 優勝

ダブルスカル(佐藤・内部) 三位
舵手付フォア(井上・内藤・飯田・佐伯・中村) 二位

バドミントン 男子団体(岡・山本・尾川・星野・藤井) 準優勝
男子シングルス 星野 三位
男子ダブルス 星野・藤井 三位

女子団体 星野 三位
女子シングルス 浜田 三位

弓道 男子団体・総合 二位
女子団体・総合 四位

ソフトテニス 女子団体 五位
女子個人 五位

テニス 女子団体 五位
女子個人 五位

水泳 男子 総合優勝
四〇〇mF 松村 三位
一〇〇〇m背 梶谷 二位

二〇〇m背 笠木 四位
一〇〇m平 中田 二位

二〇〇m平 中田 一位
二〇〇mバタ 木島 三位

二〇〇mメド 小村 五位
四〇〇mメド 小村 六位

松村 二位
金沢 四位

今春の進路状況

今春の進路状況について、報告いたします。

本校のモットーである「文武両道の実践」の中で生徒が学力をつけるのはなによりも学校での「授業」が中心の学習体制を確立することが必要となります。今春の卒業生たちも、昨年六月の総体の優勝とともに、日々の学習を重視し、また時間の有効的な利用を心がけ、放課後、教室での自学自習に積極的に取り組むなど、各自の進路希望実現のために努力し、見事に文武両道の実践を果たしました。

今春の入試は、新課程入試初年度という中で、生徒も教員も手さぐりの中で受験になりましたが、生徒達は、日頃の学習の成果を十分に発揮することができました。しかし、現役生に有利で、浪人生には不利な試験であり、今後に多くの課題を残すものとなりました。さて、今春の進路状況について下記

の表に集計結果をまとめました。国立大学の合格者が二八六名、私立大学の合格者が五九五名であり、昨年と比べ、国立合格者がやや減少したものの、私立大学の合格者が大幅に増えました。また東京大学十一名(現役九名)をはじめとして、旧帝大三九名、医学部十九名(現役十五名)は実に立派な結果だと思えます。しかし、地元島根大学を始めとして、中国地方の国立大学への合格者をもっと増やすことが今後の課題の一つだと思われれます。学力が伸び悩んだ時期もありましたが、生徒たちが一、二年生時から高い目標を持ち、文武両道を実践して最後の最後まで必死に努力し続けた結果が現れたのだと考えます。

平成8年度学校種別合格状況(平成9年4月集計)

卒業生	平成7年3月			平成8年3月			平成9年3月		
	現役	卒生	計	現役	卒生	計	現役	卒生	計
国立大学	234	78	312	224	60	284	208	45	253
公立大学	14	7	21	18	4	22	24	9	33
私立大学	317	161	478	337	184	521	394	201	595
短期大学	118	10	128	112	2	114	126	9	135
その他	19	2	21	25	6	31	51	2	53
就職	1	0	1	1	0	1	2	0	2
合計	703	258	961	717	256	973	805	266	1071
クラス数	10クラス			10クラス			10クラス		

学園祭のご案内

統一テーマ「隆」

北高は新たな歴史のページを開くべく邁進を続けています。今年の統一テーマは「隆」とは吹きあがる風、旋風を意味します。勢いよく吹きあがる風のように誰もがエネルギーにあふれ、志し高く自分の自己実現に向け突き進みたい、そういう願いをこめてつけたテーマです。生徒たちの若きエネルギーの発露を是非ご覧ください。

文化祭 九月六日(土)・七日(日)

今年の講演には、早稲田大学人間科学研究所教授の中村桂子氏を招き、「三五億年の生命」というテーマで講演をしていただきます。氏は、東京出身で、国立予防衛生研究所を経て、同研究所名誉研究員でもあられます。脳や皮膚など体中の細胞の中にあつて、生物の形や働きを決めてゆくプログラ

ムであるDNAを、生物の歴史を詰め込んだもののみならず、この解明により生物の歴史・地球上の多様な生物の関係を読み解こうとする「生命誌」の提唱者としても有名な方であり、毎日出版文化賞受賞の「自己創出する生命」など訳著書も多数あります。一九九三年には大阪に「生命誌研究館」を設立され、副館長をつとめておられます。

生命とは何か、親から生を受け子へと伝えてゆく私たちはどこからきてどこへ行くのか、「生命」という根本的問いに科学の立場から示唆に富むお話をうかがえるのではと期待しております。

そのほか、合唱・吹奏楽・箏曲・演劇部などの発表会や各文化部の展示、二年生のルーム出し物、一年生中心の北高フォーラム、家庭クラブのバザーや食堂、映画研究会の映画上演など多くの催しを計画しております。

体育祭 九月八日(月)

午前中は各班対抗の競技、午後は三年生による野外劇「ジェント、フィ

おわびと訂正

昨年発行いたしました十年史(二〇〇一年)の二〇〇一年の八ページ、九ページの二本松誤別・新形式の式詩に誤記がありました。お詫びと訂正させていただきます。

八ページ二行目
二本松の一本枯るるを哀傷び、それを

八ページ三行目 歌一種一歌一首
九ページ 反歌
悲傷びて斧入れかねつ若松や
二本松となりてゆきませ

反歌
悲傷びて斧入れかねつ
若松や二本松となりてゆきませ

お尋ねします

昭和十九年に旧制松江中学校に入学したが、学制改革・学区制施行など諸々の理由のため、松江中学校・松江高等学校を卒業しなかった松江中学四年修了者、中途転校者

今まで発行した名簿「双松」には同じような立場の他年入学者についての記述がありながら、昭和十九年入学者にはこの項目がありませんでした。昭和十九年入学者にも、このような項目に該当する人がいるという指摘を受けましたので、ご存知の方がございましたら双松会事務局まで消息をご連絡下さい。

連絡先
〒690 松江市奥谷町一六四
島根県立松江北高校
双松会事務局宛
FAX 〇八五二二一四九七七

